

令和4年度 地域就職氷河期世代支援加速化交付金事業成果報告

白河市では、内閣府の標記交付金を活用し、就職氷河期世代のひきこもり状態にある方への相談支援や情報発信、居場所づくり等の事業を実施したので、その成果を報告します。

1. 交付対象事業の名称

就職氷河期世代ひきこもり対策推進事業

2. 交付対象事業の重要業績評価指標 (KPI) 実績

	指標名	令和4年度目標値	令和4年度実績値
KPI①	就職氷河期世代のひきこもりに関する新規相談件数 (当事者、家族、支援者等から受ける相談合計)	50	19
	目標値と実績値について乖離があるが、実績としては前年よりも伸びている(約2倍)。ひきこもり全体に対する支援を行っているため、就職氷河期世代に特化した対応をすることが困難であったが、活動が少しずつ認識されてきていると思われる。「ひきこもりは悪」との意識がまだ根強く残っており相談を嫌厭する人が多いようだ。そういった方々の意識を変えるような活動を検討したい。		
KPI②	就職氷河期世代のひきこもりに関する延べ相談件数 (当事者、家族、支援者等から受ける相談の合計)	432	473
	1回の対応で終わらないように、電話を掛ける等繋がりを継続することを意識している。2回目に繋がるような話法や言い回しを工夫したり、公式LINEでの情報提供を心がけている。就職氷河期世代は本人、親ともSNSの活用率が少ないということもあるようなので、別媒体での情報提供も今後検討する。		
KPI③	就職氷河期世代のひきこもり当事者の相談が関係機関 による対応につながった人数 (福祉事務所、自立相談支援機関、民間事業者等)	30	18
	KPI①と同じ		

3. 本事業による就業者数及び社会参加者数

就業者数	うち		社会参加者数 (就学、就労準備 訓練等)	18
	就職者数	うち正規 うち非正規		
	うち、その他就業(自営、起業、内職等)			

4. 事業の実施状況及びその成果等

市が委託する「白河市ひきこもり相談支援センターTUNAG(つなぐ)」(令和2年9月開所)と連携し、窓口や電話、訪問による相談支援に加え、SNSの匿名性、即時性の特徴を活かしたオンラインによる相談支援、実態調査のためのアンケートを実施した。

また、当事業のPRのためのチラシを市内全戸(約2万世帯)に配布した。

中心市街地以外の方も利用しやすいように、出張相談会(合計2回)も実施した。

東北福祉大学森准教授に講師を依頼し、ひきこもり支援についての講義を受講、具体的な支援にどう繋げていくか等今後に向けて勉強会を行った。

- ・窓口、電話での相談件数 184件
- ・訪問による相談件数 35件
- ・SNS、メールによる相談件数 140件
- ・オープンチャット参加件数 20件
- ・その他 94件

当成果につきましては、令和5年5月24日に行われました、白河市ひきこもり支援機関定例会にて報告し検証を行いました。また、有識者(東北福祉大学森准教授)にも検証を依頼済みです。